

# 目 介 裕



大田ゆうすけ

(福山市議会議員)

No.7

毎月1日号に掲載

## 公共下水道の 功罪について

福山市の市債残高は平成22年度末で3316億円ある。市役所の会計制度は単式簿記だが、仮に貸借対照表を想定すれば、この「負債」は何らかの「資産」と対応しているはずだ。そこで福山市の市債残高の内訳を見ると、最も多いのが下水道事業債で1106億円もあり、市債の33%を占める。私はこの借入金により整備した下水道という資産が問題だと感じている。

なぜなら下水道は持続可能性が低いということに尽きる。人間に例えれば、下水道は動脈で下水道は静脈だ。それを人工的に作っているわけだが、人間の体なら長くても百年で終わるが、下水道はいつたい何時まで続けるのか？今後の維持管理にも莫大な費用がかかるだろう。汚水処理の方法は何も下水道しか無いわけではない。技術革新により有線電話から携

帯電話へ移行したように、線から点へ、合併処理浄化槽やバイオトイレ等の拠点処理も有効だ。次に下水道は地震に弱く、特に液状化により復旧に莫大な費用がかかり、神戸市は未だにその負担に喘いでいるし、東

北の各都市も困ることだろう。そもそも下水道という資産は収益を生まない。下水道会計予算に占める使用料の割合は約30%しかなく、残りは一般会計からの繰り入れ(雨水処理分)や国の補助金と市債(24%)により賄っている。4月より下水道会計は財政状態及び経営成績を明らかにするために企業会計に移行し、水道局と統合して「下水道局」が誕生する。これによりようやく下水道会計の貸借対照表と損益計算書が作成され、新年度予算で示された。それにしても下水道により快適な生活を送る代償として大借金が発生していることを多くの市民は知らず、議員も関心が低いのが実態だ。

今さら価値観を変えるのは大変なことだが、結局、昔ながらの汲み取りが一番安上がりで、持続可能性が高かったことを忘れてはならない。臭気や衛生上の問題など現在の技術で簡単に解決できるのではないだろうか。